

特集「快適な運用管理を支えるインターネットと運用技術」の編集にあたって

敷田 幹文^{1,a)}

近年はクラウドサービスの普及にともなう、これまで以上に大規模な情報システムに集中化が進み、システム提供側の運用管理者は負担が増大している。大規模な情報システムの構築にはコンテナ仮想化やそのオーケストレーション技術を用いて運用作業の自動化が進められている。また、サービスを行うソフトウェアの開発やデプロイメント（展開）に関しても、継続的インテグレーション（CI）や継続的デリバリー（CD）を行って運用管理作業を自動化・効率化する手法が用いられるようになってきた。これらの技術によって運用者の労力が軽減されつつあるが、スケーラブルな技術を用いてさらに大規模になったシステムを運用するために、基盤システムの運用に携わる提供側運用管理者の負担は今なお高い状況である。

本特集号では、インターネットや情報システムの運用管理を効率化し、利用者だけでなく提供側も快適に運用管理を行うための技術に焦点を当て、これからの情報通信基盤の構築および活用に向けた最新の研究、開発、実験、運用等に関する論文を掲載している。本特集号は、インターネットを始めとするネットワークシステムに関連する様々な運用技術の発展に寄与することを目指し、インターネットと運用技術（Internet and Operation Technology : IOT）研究会が中心となって企画・編集を行った。

本特集には13編の論文が投稿され、18名の委員からなる特集号編集委員会を中心に査読が進められた。編集委員会には、2019年末に「運用管理する人“も”報われるシステムの構築を考える」というテーマで開催された第12回インターネットと運用技術シンポジウム（IOTS2019）のプログラム委員経験者を迎えることにより、テーマの連続性強化とIOTS2019の発表を元にした論文の投稿にもつなげた。また、本特集号の論文募集に合わせて、IOT研究会で「投稿予定論文に対するアドバイス制度」を設け、投稿時の論文品質を向上させる取り組みを実施した。

最後に、本特集号を企画する機会を与えていただくとともに、その実施にご尽力、ご支援いただいた学会関係者各

位に感謝するとともに、本特集号に興味を持ち優れた論文をご投稿いただいた著者の方々と、多忙な中、多数の研究成果を綿密に精査し、より良い論文にすべく有益なコメントをご提供いただいたアドバイス委員、査読委員ならびに編集委員の方々に深く感謝する。また、編集作業をサポートいただいた副委員長および学会事務局の皆様にも感謝する。本特集が読者への有益な情報となり、今後の情報通信技術発展の一助となることを期待したい。

「快適な運用管理を支えるインターネットと運用技術」特集号編集委員会

- 編集委員長
敷田 幹文（高知工科大学）
- 幹事
中村 豊（九州工業大学）
- 編集委員
池部 実（大分大学）
市野将嗣（電気通信大学）
今泉貴史（千葉大学）
大谷 誠（佐賀大学）
柏崎礼生（国立情報学研究所）
北口善明（東京工業大学）
坂下 秀（アクタスソフトウェア）
佐藤 聡（筑波大学）
嶋田 創（名古屋大学）
土屋英亮（電気通信大学）
萩原威志（新潟大学）
鳩野逸生（神戸大学）
松本亮介（さくらインターネット）
宮下健輔（京都女子大学）
山井成良（東京農工大学）
吉浦紀晃（埼玉大学）

¹ 高知工科大学
Kochi University of Technology, Kami, Kochi 872-8502, Japan

^{a)} shikida.mikifumi@kochi-tech.ac.jp